谷崎潤一郎記念館新聞

谷崎潤一郎って誰？

谷崎潤一郎は様々な小説を産み出した。そんなたくさんの小説の中で四つの作品を紹介する。一つ目は芦屋が舞台となっている『細雪』。細雪は大阪船場の没落豪商の美しい四人姉妹の恋物語。

二つ目は『春琴抄』。春琴抄は、大阪の薬種商、鴫屋の娘である春琴と奉公人である佐助の印象に残る物語。

三つ目は『痴人の愛』。痴人の愛はカフェの女給から見出したに15歳のナオミを育て、いずれは自分の妻にしようと思った真面目な男が次第に少女にとりつかれ破滅するまでを描く物語。

四つ目は『猫と庄造と二人のをんな』。猫と庄造と二人のをんなは猫のリリーを中心に二人の女と一人の男の三角関係を描いた物語。恋愛系の物語が多い。

代表作はどんなもの？

人物紹介

谷崎潤一郎は1886年から1965年まで生きた。東京で生まれ関東大震災後は長い間関西で過ごした。谷崎はたくさんの作品をつくってきたが、関東でも芸術性を重視するその作品は世界でも高い。しかし、純文学の作品ではなく娯楽目的もたくさんの作品を残している。なかでも探偵小説は江戸川乱歩が名前の由来のエドガー・アラン・ポーを引き合いに出して、谷崎を日本のポーと評した。

谷崎潤一郎記念館

芦屋谷崎潤一郎記念館は、兵庫県芦屋市にある文学館。小説家谷崎潤一郎に関する資料の保存と公開、およびその業績の顕彰を目的に1988年に開館した。

谷崎の好んだ数寄屋風の邸宅を模した記念館と庭園からなり、遺された谷崎愛用の机、硯、筆、美術作品や、さまざまな資料を収蔵・展示している。館内のホールでは、谷崎文学の朗読会や文学講座、講演会や演奏会など、谷崎に因むイベントが開催される。

玄関横に飾られている重さ15トンの巨石は神戸市東灘区岡本にあった旧谷崎邸の庭石である。阪神大水害のときに邸内に飛び込んできた石をそのまま庭石としていたものである。